

の結果については、公民館を中心とした地区人権協議会や隣保館等での人権啓発の材料として有効に活用するとともに、このような地道な活動を通して市民一人一人の人権意識のさらなる向上を図っていききたいと考えています。

## 介護支援

**問** 介護支援ボランティア事業の実施状況と今後の事業推進にどのように取り組まれていくのですか。

**答** 本市では、介護支援ボランティア制度と同様の事業として、平成元年に創設した大洲市地域福祉サービス事業として介護キップ制度があり、平成12年の介護保険の導入により、新介護キップ制度に引き継がれ、高齢者に限定しない市民の相互扶助の精神を基調とした点数預託制度として、現在も継続して実施しているところ です。

この事業は、地域における福祉問題を住民同士が互いに支え合いながら解決を目指す一つの手段として、

清掃、買い物、外出時の介助、話し相手等の生活支援活動、地区社協事業やサロン活動等の地域活動の支援に対して、1回の活動につき2点の点数を預託しているものです。この預託点数については、一定以上たまった時点で換算し、慰労金の還付が受けられる制度となっております。多くの市民の皆様が御協力をいただいています。

市としても、高齢者や障がいを持った方々の日常生活の支援に効果的な制度であると考えており、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるよう、今後もこのような支援を継続していききたいと考えています。

また、福祉施設等に関しては、どのようなものがニーズとしてあるのかなどを施設の関係者とも協議をしながら、制度の拡充等に向けて、その必要性について検討していきたいと考えています。

## えひめYOSAKOI祭り

**問** 参加者数や市外からの滞在者数と本市にもた



カテゴリーで大賞となった「松山よさこい風舞人」

らす経済効果をどの程度見込んでいるのですか。

**答** 平成16年に始まり、祭りの演舞を通じて大洲地域の活性化を目的とした「えひめYOSAKOI祭り」も今年で10年の節目を迎え、一定の成果と効果が表れているものと考えています。

参加者等については、前夜祭では本場高知県からゲストチームとして1チーム、その他市内外から11チームの計12チームで、総数約300名の参加者が演舞する

ことになっており、そのうち宿泊者数が約80名、観客動員数が約2,000名と想定しています。また、18日の本祭については、市内外から35チーム、総数約1,200名の参加予定となっており、観客動員数を約7,000名と想定しています。

本市にもたらす経済効果については、経済効果の算出にはいろいろな方法がありますが、今回は市内参加者、日帰り参加者、宿泊する参加者、日帰り観客の消費額等で試算すると、2日間約2,000万円の経済効果があるものと期待しています。

今後ますますこの祭りが地域に根差し、地域の皆様に理解され、多くの観光客を集客できる祭りとなるよう期待するとともに、市としてもできる限りの支援をしていきたいと考えています。

## ふれあいパーク

**問** ふれあいパークが市民に親しまれる公園となるようどのように整備され

ていく考えですか。

**答** 当公園は、大洲拠点地区に隣接する位置に、市内の各地域の住民相互の交流を促進し、市民のレクリエーション活動等に寄与する都市公園として、平成17年度から事業に着手し、本年度末の完成を目指しています。

公園には、小さい子供さんからお年寄りの方まで幅広く利用していただけるよう、ちびっこ広場、自由広場、健康遊具やジョギングロードなど、様々な施設を整備するとともに、貯留施設としての機能を付加させ、大洲拠点地区の治水安全度

現在のふれあいパークの様子

